

サラ、ティトゥアン、イネス、トーマス、レディ

筑波大学
グローバルコミュニケーション
教育センター

総合日本語 4
読む書く

2020年春学期

授業担当 堀恵子

目次

授業スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
ブラジャーの ^{はつめい} 発明	レビロン・レティシア 5
バーゼル・ファスナハト	サラ エラート 6
世界一のグミキャンディ	スモルーレグス・ フロレンスエルナイネス 7
フランスの音楽祭 : 「フェト・デ・ラ・ムジク」	ティトゥアン・ズグミーヤ 8

そうごう
総合日本語 4 読む書く A

かもくばんごう
(科目番号 3901122)

2020 年 春学期

日時：木曜日 1 時間目 (8:40~9:55)

教員：堀 恵子 (ほり けいこ) hori.keiko.gb@u.tsukuba.ac.jp

★この授業が受けられるのは、特別聴講生です。大学院生や研究生は受けることができません。zoom を使えるようにしてください。

1. 授業の目標

- よく知っている事柄, 身近なことについて、まとまりのある文章を読んで、正しく理解できるようになる。
- よく知っている事柄, 身近なことについて、まとまりのある文章が書けるようになる。
- 文章を読んで、理解したこと、考えたことをわかりやすく伝える。
- 読むことを通して、語彙・表現・文法の知識を増やす。
- 自分の読み方を振り返る。

2. 授業の内容

<読む> 説明文、やさしく書かれた新聞記事などを読む。

<書く> 自分の経験したこと、自分がよく知っていること、意見とその根拠などを書く。

3. 授業の流れ

かならず、授業前の準備と授業後の課題をしてください。これができない人は受講できません。

授業前の課題	授業中	授業後の提出物
新しい言葉調べ→manaba 小テスト「言葉チェック」	ペアで文章を読んで、内容を理解 質問の答えを書く	終わらなかった人:manaba 小テスト「質問の答え」
文法・表現の解説を読む→manaba 小テスト「文法・表現」	文法・表現を全員で確認 作文についてペアで話し合い→作文メモを書く	終わらなかった人:manaba 小テスト「作文メモ」
作文メモを元に作文書く→manaba レポート「作文下書き」	作文をペアで読む→ペアの意見をもらう	全員：作文のコメントを受け取り、よく読んで、書き直し→manaba レポート「作文完成」

★ 授業のはじめに、その日のペア、グループを決めますから、8:40 に zoom に入って、筑波大学の学習管理システム manaba の respon で出席を出してください。授業に出られない人は、教材をよく読んで課題を出してください。

★ 教材は manaba のコースコンテンツに入っていますから、授業の前にはかならずダウンロードしてください。zoom の授業では教材を見ながら進めますが、zoom と pdf を同時に

見られない人は、授業の前に印刷して紙で見ながら授業を受けてください。

- ★ 授業の前の課題をかならず出してください。
- ★ 授業では、ペアワーク、グループワークをします。

4. 授業計画

	日	授業内容	書くため、読むためのストラテジー	授業後の manaba 利用
1	4/30(木)	オリエンテーション レベルチェック	word 文書の書き方	小テスト「言葉チェック」
2	5/7(木)	読む・書く活動① 「日本語の文体」	文体の使い分け 段落の書き方 順序の書き方	小テスト「質問の答え」
3	5/14(木)			小テスト「文法・表現」
4	5/21(木)			レポート「作文①下書き」
5	5/28(木)			レポート「作文①完成」
				小テスト「言葉チェック」
6	6/4(木)	読む・書く活動② 「文化と行事」	定義の書き方 意見の書き方	小テスト「文法・表現」
7	6/11(木)			レポート「作文②下書き」
8	6/18(木)			(レポート「作文②完成」)
				小テスト「言葉チェック」
9	6/20(土)	読む・書く活動③ 「インターネット」	敬語・ていねいな文体	小テスト「文法・表現」
10	6/25(木)			レポート「メール下書き」
11	7/2(木)			レポート「メール完成」
				小テスト「言葉チェック」
12	7/9(木)	読む・書く活動④ 「カップヌードル 開発物語」	読むストラテジー, 要約 の書き方	小テスト「文法・表現」
13	7/16(木)			レポート「作文③下書き」
14	7/23(木)			レポート「作文③完成」
15	7/30(木)			作文集作成準備

6/20 は土曜日ですが、授業があります。どうしても授業に出られない人は、講義のスライドを見て、課題を提出してください。

5. 履修条件

総合日本語 3 を終わったレベル (初級の文法, 語, 表現の勉強が終わった人)

TTBJ 日本語が J4 レベルの人

6. 評価方法

課題作文 60%、manaba 課題提出 40%

8. 協働で学ぶ

・多くの研究から、クラスメートと話し合い、助け合いながら学ぶことが効果的であることが分かっています。読むとき、書く時に、ペア/グループ活動をします。ペア/グループでは、前向きな態度で積極的に発言したり、アドバイスをもらったりしてください。

ブラジャーの^{はつめい}発明

レビロン・レティシア・201954013

世界で全ての女性が少なくも一回はブラジャーをつけたことがあるだろう。^{げんだい}現代ではブラジャーはとても普通だが、歴史的にはブラジャーの^{はつめい}発明がみんなの生活に^{だいへんかく}大変革をもたらした。

昔はヨーロッパの女性はコルセットをつけていた。そのコルセットはとても痛くて大変だったり、その服は^{けんこう}健康を害したり、体に大きい^{そんしょう}損傷をしたり、背中の^{ひも}紐が苦しすぎたりした。日本の^{かこ}過去にはそのコルセットがなかったが、ヨーロッパとアメリカでみんながコルセットの^{もくてき}目的を知っている。確かに、20世紀まで使った。一番有名なコルセットタイプの^{たいけい}目的は体型を形作ることだが、時々^{いがくてき}医学的な理由もある。

1889年6月27日、Herminie Cadolle（ヘルミニ・カドル）さんがパリではじめてブラジャーと同じような物を^{はっぴょう}発表した。カドルさんの仕事がコルセットを作ることだったので、より便利で簡単なコルセットを作ろうと考えた。そして、パリで「corset bien etre」（コルセ・ビアン・エトル）と^{なづ}名付けた。日本語で「^{こうふく}幸福コルセット」と^{ほんやく}翻訳できる。その時には、「ブラジャー」の名前がまだ見つけられなかった。「ブラジャー」という名前は後でカナダから来た。

しかし、カドルさんの発明はあまり使う人がいなかった。今のブラジャーとカドルさんの「corset bien etre」は違う。カドルさんのコルセットは実に^{むね}胸の下で半分に切られていて、また普通のコルセットに似ている商品だった。そして、あまり^{かいてき}快適じゃなかった。

その発明はアメリカに来て、作る方が変わって、より小さくなって、そして1920年代^{ねんだい}に少し有名になった。その時には^{だいいちじせかいたいせん}第一次世界大戦の後で女性が^{じゆう}自由の^み身になったから。アメリカで作り方が少し^か変わったが、普通のブラジャーが^{もと}元はフランスの「corset bien etre」というコルセットから来たものだ。

私は女性なので、カドルさんに「ありがとうございます」と言いたい。

バーゼル・ファスナハト

サラ エラート

バーゼル・ファスナハト(Basler Fasnacht)というのはスイスにあるカーニバルだ。

バーゼル人にとって、そのカーニバルは文化の大部分と、^{ほこ}誇りに思う。その3日間は音楽と大コスチュームと^{かみふぶき}紙吹雪がいっぱい日だ。

毎年、二月頃、^{はい}灰の水曜日の次の月曜日の夜に朝の4時ちょうどに始まり、木曜日の朝の4時までだ。最初の日は4時に町のすべて光をカットして、町のすべての音楽団と一緒に音楽をスタートする。カーニバルの始まりという意味だ。その後はランタンのパレードだ。

^{いんしょうてき}印象的なサイズのランタンが実は社会の^{ふうしが}風刺画だ。

次の日は子供と家族の日だ。ワーギス(Wagis)はピエロではない。スイス語で「悪い男の子」という意味だ。ワーギスはカーニバルフロートの上からお菓子やみかんや小さなおもちゃや花などなど、^{ぐんしゅう}群衆に投げて、それともたくさんの紙吹雪を投げる。

三日間、町全体が^{いわ}祝っている。どこでも音楽やパレードがあり、^{ちじょう}地上でカラフルな紙吹雪が綺麗だし、特別の食べ物を食べることが出来る。けれど、それよりはるかにみんなの笑顔は私には一番好きな思い出だ。

灰の水曜日 : Ash Wednesday / Le mercredi des cendres

紙吹雪 : confetti

鋭い : at the dot / pile

風刺画 : caricature

群衆 : the crowd

露出 : exhibit

祝っている : celebrate

第一の日



第二の日



第三の日



学生番号 ; 201954471

世界一のグミキャンディ

スモルーレグスフロレンスエルナイネス

世界中で愛されているグミキャンディブランドは？そう、ドイツで設立したハリボだ。ハリボには色々なグミキャンディがある。ハッピーコーラとかハッピーグレープとかハッピーフルーツなどがある。中でもハリボには世界で一番愛しているのはグミキャンディはゴールドベアだ。

ハリボはボンで1922年に設立した。名前はハリボの創設者と町の名前から作った。創設者はHans Rigel などで、Hans の「ハ」、Riegel の「リ」そうしてBonn の「ボ」。それで「ハリボ」は完成した。

最初作った商品はもちろん愛されてのゴールドベアだった。でもその時、名前は違った。名前は「Tanzbären」だった。名前の意味は踊るくまだ。理由はグミキャンディの形だ。形はかわいくまの形だ。でも1960年変わってゴールドベアは生まれた。その名前の意味が金のくまだ。その時から世界中に広がっている。

しかし2007年ハリボはゴールドベアの味を変えた。2007年からライトレッドのくまが発表された。そのくまはいちごの味になっていた。でもその前に、緑はいちごの味だったので、その時から緑はリンゴの味になった。だから今のゴールドベアは6つの味がある。その味は白のくまはパイナップルの味、黄色のくまはレモンの味、オレンジのくまはオレンジの味、ライトレッドはいちごの味、あかむらさき色のくまはラズベリーの味、そして緑のくまはリンゴの味だ。

ゴールドベアのグミキャンディは世界中で愛されるグミキャンディだ。だからスーパーで見つける、是非買ってください。

フランスの音楽祭：「フェト・デ・ラ・ムジク」

ティトゥアン・ズグミーヤ
202055612

フランスの音楽の日について説明したい。「Fête de la Musique」という行事は6月21日に起こる。その日は、皆が外に行って、路上で音楽を演奏したり、友達と踊ったりして、コンサートしたりします。窓を開けたら、6月22日の朝までいつでも音楽が聞こえる。音楽の日というのは、巨大なパーティーのことだ。

1976年にジョエル・コヘンというフランスに住んでいたアメリカ人が6月21日や12月21日に「夏至と冬至のパーティー」をした。ジャック・ラングという文化大臣はそのパーティーが気に入った。そこで、1982年6月21日にジャック・ラングは「Fête de la Musique」を開催した。6月21日は北半球の夏至なので、一年で一番長い日だ。夏至の夜は短いからその日を選んだ。この年から音楽の日として定着し始めた。さらに、国際的な行事になった。世界では、120か国以上が夏至に音楽を祝う。

音楽の日について、子供の時の思い出がたくさんある。私の誕生日とフランスの音楽の日は同じ日に起こるから毎年、授業が終わった後で自分の両親と「MUSE」というバンドのコンサートに行っていた。一日間皆が音楽を聞いて、踊って、路上で音楽を演奏するので、最高の誕生日パーティーだと思うからその日が大好きだ。